

一〇一五年五月二三日

子育てに余念なき親つばめかな
玉解きてはや風いなす芭蕉かな
麦秋の大和平野に香りたつ

一〇一五年五月二二日

ひと筋の清き流れや花菖蒲
独り居に存問と聴く初音かな
点描めくメタセコイアの芽吹きかな

一〇一五年五月二二日

城垣に日の斑を落とす青葉かな
風通ふ日の斑の道に三尺寝
雨意兆す風鈴急を告げにけり
白亜なる母子像薔薇に埋もれけり

一〇一五年五月二〇日

堂涼し神の愛説く牧師また
樹下涼し一会の人とバスを待つ
あめんぼう木影遊泳するごとく
迫りくる梅雨に急かされ畠仕事

一〇一五年五月一九日

斯く風化して苔むせる合戦碑
老鶯の声空谷の深きより
寺町の僧速足に夏衣
風に立ち岩に碎ける卯波かな

千鶴明日香

ベ明日香

ベ明日香

子康澄澄澄

子正千鶴愛澄

子正千鶴愛

金婚の夫に感謝のビール注ぐ
初宮の娶に手向けし白日傘

あひる澄子

丁寧に剥いても跳ねる豌豆かな
一〇一五年五月一八日

ショーウィンドウに姿勢を正す薄暑かな
クローバの野に寝転べば雲涼し
雨晴れたよと告ぐ蛙騒がしき
岩頭に立ちて滝風受けにけり
人垣を搖るがせ神輿練り歩く

やよいあひるみきえ康子明日香

一〇一五年五月一七日

輿に座す斎王代に風薰る
万緑に鷗尾抽んでし東大寺
園児らの田植体験泥笑顔
新玉のオニオンサラダ山と盛り

ふさこわかばかかし千鶴明日香

堆く積んで危うし苺パフェ
夏蝶の一頭夫の召天日
花粉マスク外す四阿風五月
濃く淡く堂塔包む若楓

あひるあひるむべなつきわかば

毎日句会みのる選・一〇一五年五月二六日